
元彼、

みいこ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

元彼、

【ZPDFード】

Z7885C

【作者名】

みいこ

【あらすじ】

わたしは「れい」 風俗嬢。 風俗嬢は人を愛してはいけないの?
愛を求めてはいけないの?

プロローグ（前書き）

忘れられない恋、
あなたにはありますか？

プロローグ

ふわ、つと夢を見た。

いや、夢というより一瞬の空想かもしれない。とにかく私の目の前にまたあの情景が浮かぶ。一瞬だけど、

私にはそれが何であるか一瞬で分かつた。ゆっくり目を閉じる。

今度は自分の意思で、その情景をなぞる。

確かにそこにいた。

懐かしい土手にそつて続く長い長い道。

頭の上になるのは真っ赤な、血のような赤い空。

地上の物すべてが赤くなる。

その方が都合がいい。私の頬が赤い事がばれにくくなるから。そんなことを考えて歩く。左手には温かい人間の温度を感じていた。

「心太……」

愛おしく彼の名前を呼ぶ。
ゆっくり頭を左に回す。

「れいさん？」

「・・え？ なに？」

「もお～寝てちゃダメじゃないすか。」「

「あはは、疲れてたみたい。」

私は乾いた笑顔を作つて頭を起こした。

空想の続きを一瞬にしてどこか遠くへ消えていった。

まるで神様が私に見てはいけないと言つてているようだ。

ふう、とため息をついて私は遠くを見つめた。

残つたのは左手中の冷たい空氣だった。

「れいさん」指名です。」

スタッフの声に頭より先に身体が反応した。

「ハイ。」

すくっとソファを立ち上がり私は着ていた羽織を脱ぐ。
白くて薄いワンピース姿になり、2秒ほど鏡を見つめる。

「よし、今日も綺麗。」

「いいなあ～れいさんスタイルいいしー美人だしー。」

「ちひろも十分綺麗よ、若いし。」

3週間前から入ってきた新人のみえみえな先輩への媚を軽くかわし
私は控え室を出た。

私は「れい」

風俗嬢。

この世界に入つてどれくらい経つだろう。

1年と少しだと思うが、あつという間だつた。

この仕事に就いたのには別にお金に困つていたとかそういう理由が

あつたわけではなかつた。

なんとなく、興味があつたからだ。

色々悪戦苦闘はあつたがそれなりに人気も出て常連さんもできた。
そんなこんなでずつとこの仕事を本業として続けてきたというわけだ。

親にはバレていない。ずっと「事務をしている」と言つて通している。

友達は元々あまりいないし、店の子とも深い関わりは持たない。
だから続けていけるのだろう。

「風俗嬢に一番必要なのは心の強さだ。」

いつかの店長が言つていた。

その通りだと思った。

世間から白い目で見られる職業を続けるにはなかなか根性がいる。
周りの知り合いに隠しながら仕事をしている人もいるが限界はある。
誰に知られても平然としていられる、誰を失つても笑顔でいられる、
そんな強さが必要なのだ、と店長は言いたかったんだと思う。

私にその強さはあるのだろうか・・・？

「れいは大丈夫だ。」

そのときの店長は笑つてそつと言つてくれた。

その笑顔に惚れたんだ・・・。

ねえ、覚えてる? ・・・心太・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7885c/>

元彼、

2011年1月3日23時43分発行